

第4回徳島市男女共同参画推進ネットワーク 議事録（要旨）

日 時 令和5年4月26日（水）15:00～16:30
場 所 ホテル千秋閣 6階 孔雀の間
出席者 21名（委員名17名、事務局4名）

1 開会

2 委員紹介

3 座長及び副座長の選出

委員互選により座長に加渡委員、座長指名により副座長に藤村委員を選出。加渡座長あいさつ。

4 議題

(1) 令和4年度事業の取組状況について

(2) 令和5年度事業について

(3) 意見交換

5 閉会

（意見交換での主な意見）

A 委員 女性活躍というのは女性に下駄を履かすことではなく、性別関係なく多様な考えや視点を尊重し、ともに活躍することであり、女性活躍という四文字熟語がなくなればよいと感じる。多様な視点を取り入れながら同義性を排していく事がダイバーシティの根幹であり、ネットワーク会議においても多角的な意見をもとにし、ダイバーシティの推進に向けて協議を重ねていきたい。

B 委員 企業の中に働き方のロールモデルとなる人物がいたら、その人を目標に頑張ることができる。全国的に見ても徳島県は女性管理職比率や女性社長比率が高く、女性が活躍できる企業も多いため、そこでの取り組みを全国に発信していければよいと思う。

C 委員 管理職になったり起業したりすることは、女性にとってまだまだハードルが高いが、楽しくチャレンジできるように、女性のみならず働く全ての方の背中を押せるような事業を展開したい。

- D 委員** 現在の若者は、「相互に尊重する」という意識が強い。
公的セクターは、女性や若者が徳島から流出するのを防ぐシステムを考えるのではなく、進学や就職を機に出て行った人が時を経て徳島に帰りたと思えるようなシステムを形成すべきである。
進路決定には親の影響が非常に大きいので、大学生や就職を控えた若者だけでなく、親もターゲットとして事業を進めるのが効果的だ。
- E 委員** 現在、理工学部的女子学生を増やす取組を行っているが、進路決定に親の意向が関係してくることを考え、子どもの進路や就職に対する偏見や先入観を解消するような親の意識改革が必要である。
- F 委員** 子どもの進学先や就職先の選択において、保護者が意見介入するケースが多い。教員としては自分の夢に向かって進むよう指導するが、最終的には本人の意志よりも保護者の意向を優先する学生が一定数存在する。しかしその一方で、事務職にこだわらず、営業や販売など多様な職種に挑戦したいと考える女子学生も増加している。
- G 委員** 固定的な性別役割分担意識の解消に向け、最近では男女問わず様々な職種の社内研修を受けられるよう取り組んでいる。しかし、これまで男性が主であった職種に女性が挑戦したいと思っても、それを言い出しにくい風潮があり、また上司の側としても、固定的な性別役割分担意識によりその挑戦を後押ししにくい状況にある。今後は、仕事における固定的な性別役割分担意識の解消につながる情報を、社内に定期的に発信していきたい。
- H 委員** 数年前と違い、若い方のジェンダーに対する意識が高まってきているように感じる。今後、固定的な性別役割分担意識の解消を進めていくには、組織風土の形成を担う上位職に対する働きかけも必要であると考えます。
- I 委員** 中高年の方と比較し若い世代の方は、育児等も性別に関係なく一緒に協力するなど、ジェンダーについての意識が高い。また、今後は育児だけでなく介護の面においても、パートナーや企業の理解が大切になってくるため、企業においては、そのような面に配慮した取り組みも検討していただきたい。
- J 委員** 各企業において実施している女性活躍推進の素晴らしい取り組みやロールモデルの方の働き方を、私の所属する団体の会員にも紹介していきたい。

- K 委員** 同じような年代の男性が意思決定していると会社は変化のしようがない。今後、会社が変わっていくためには、女性や若手の多種多様な意見を取り入れる仕組みが重要であると思う。また、企業は産休制度や短時間労働勤務の制度を仕方なく導入するのではなく、会社が成長するための重要な取り組みであるという認識を持って実行すべきだ。ネットワーク会議の連携事業によって、若手経営者が立ち上がり、ダイバーシティの意義について考える機会を増やすことができれば、この会の意味は非常に大きいものになると考える。
- L 委員** ある高校の制服が男女兼用になったというニュースを見たが、ジェンダーを身近に感じながら成長できるきっかけになると思った。高校生や大学生の意識は変わっていているが、大人の考え方はまだまだ変わっていないため、各世代が勉強できる機会が必要だと思う。
- M 委員** 世代によって考え方は違うが、中高年の世代ではまだまだ男性の意見が中心となることが多く、女性もそれを容認する風潮がある。今後、固定観念の解消に向けた取組を周知していきたい。
- N 委員** 女性がリーダーとなっている地域も存在する。男性が意思決定をし、女性はサポートをするという傾向がまだまだ強い中、性別役割分担意識にとらわれずに行動する若者も増えてきている。今後は性別に関係なく、ともに活躍できる地域コミュニティをつくっていきたい。
- O 委員** 教育現場にてアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）についての授業を実施する際は、授業参観にするなど、親子で一緒に学べる機会を作ってほしい。
- P 委員** 企業経営者や経済団体、教育現場の方など、様々な組織と連携をとり、男女共同参画事業を推進していきたい。
- Q 委員** アンコンシャスバイアス授業の狙いは、生徒に無意識の思い込みについて考えてもらうだけではなく、生徒に指導をする教員にも理解を深めてもらうということでもある。生徒だけでなく保護者や教員にとっても、知識や気づきを得る機会になればよいと考える。